

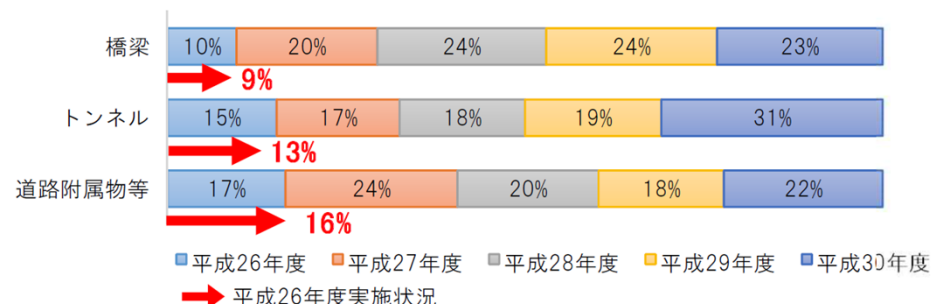
長野県内の道路の老朽化の状況

平成28年3月18日(金)
関東地方整備局 長野国道事務所
道路構造保全官 高橋 明

点検実施状況(全体)

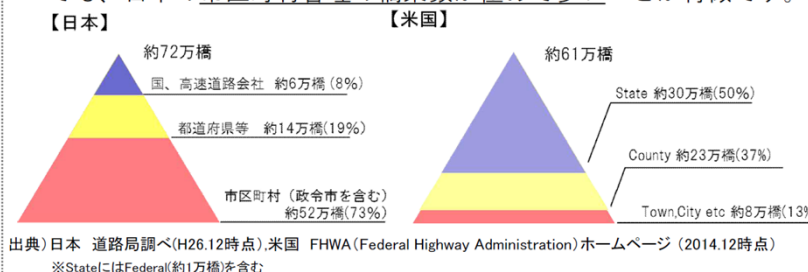
- 平成26年度において、橋梁は全国約72万橋のうち、約6万橋の点検を実施しました。
- なお、各管理者別の点検実施率は、全体で約9%、管理者別では、国土交通省 約15%、高速道路会社約16%、都道府県・政令市等 約12%、市区町村 約7%となっています。

■点検実施状況(橋梁・トンネル・道路附属物等)



【参考】橋梁の現状

- 全橋梁のうち、市区町村管理が約7割を占めており、米国と比較しても、日本の市区町村管理の橋梁数が極めて多いことが特徴です。

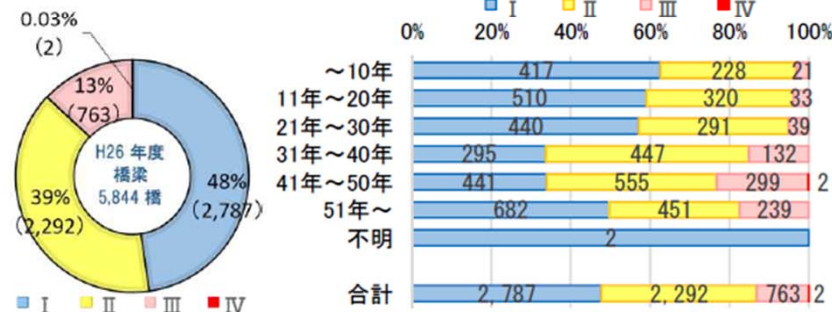


点検結果(橋梁)

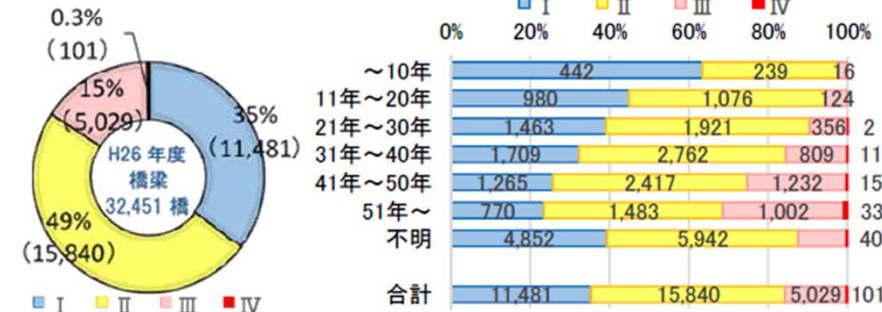
- 平成26年度に点検を実施した橋梁のうち、緊急又は早期に修繕などの措置を行う必要のある橋梁が、国は約13% (765橋)であるのに対して、市区町村では約16% (5,130橋)となっています。
- 建設経過年数が長くなるほど、早期に修繕などの措置が必要な橋梁の割合が多くなっています。
- 緊急措置段階である判定区分Ⅳの橋梁については、速やかに緊急措置を実施したところです。(年報にリストを添付)

■判定区分と建設経過年度(橋梁)

〔国土交通省〕



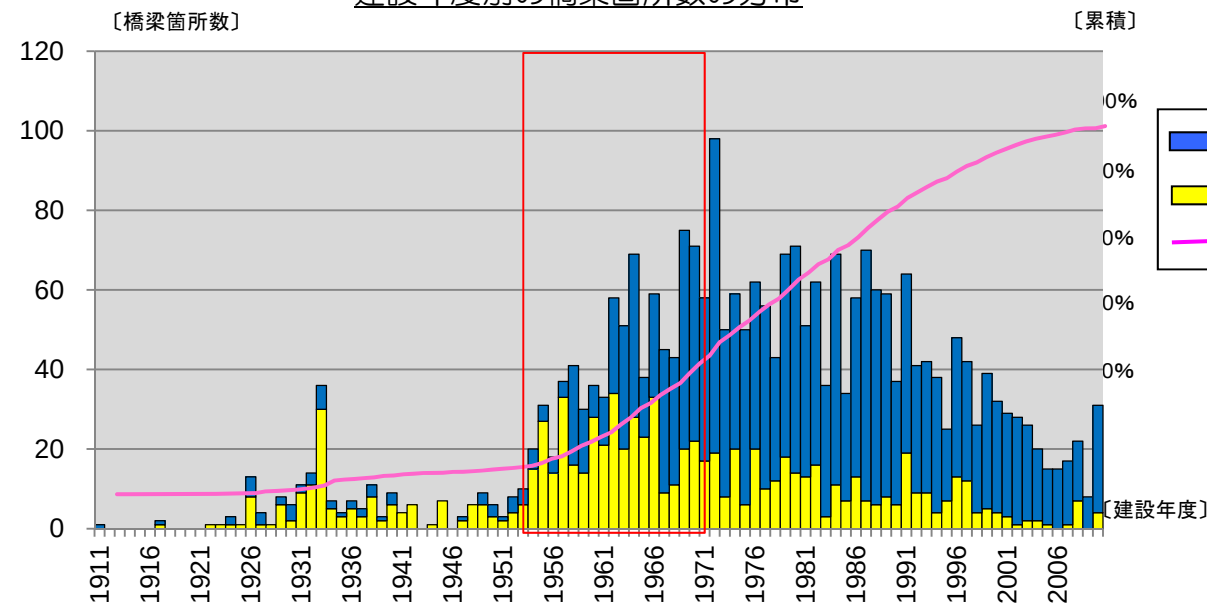
〔市区町村〕



橋梁の建設後の経過年数(関東地方整備局全体)

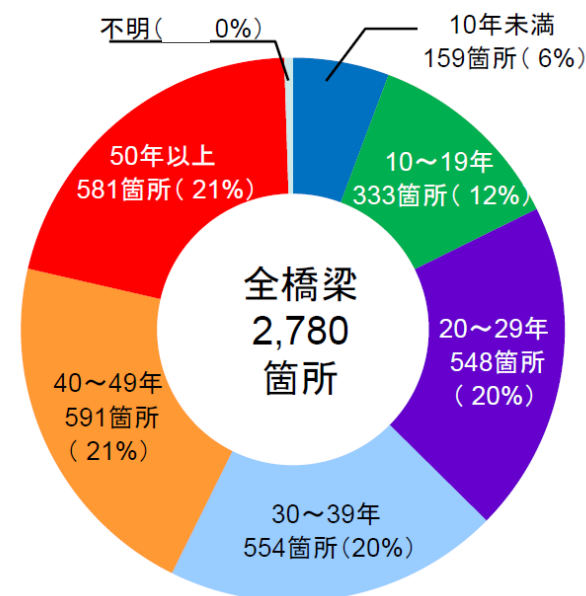
関東地方整備局が管理する道路橋2,780箇所のうち、全体の34%にあたる約940箇所が一般に高度経済成長期と言われる1955年から1973年にかけて建設されています。今後これらの橋梁の高齢化が一層進展していくことから、多額の修繕・架替え費用が集中的に必要となることが懸念されます。

建設年度別の橋梁箇所数の分布

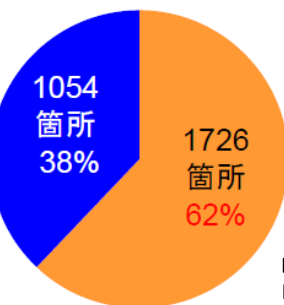
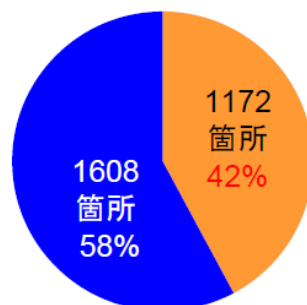
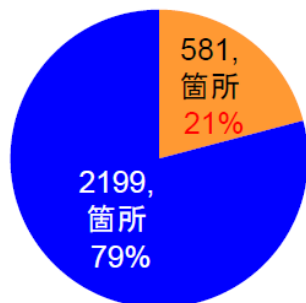


建設後の経過年数内訳

※橋長2m以上対象
(平成25年4月1日現在)



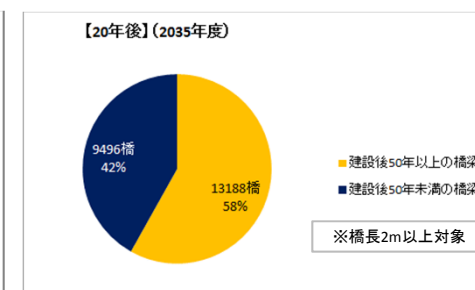
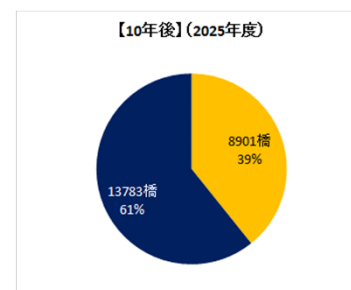
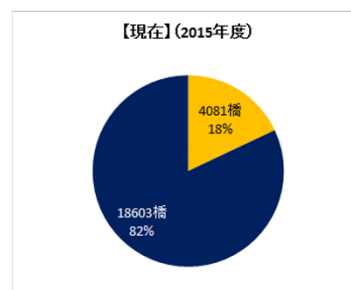
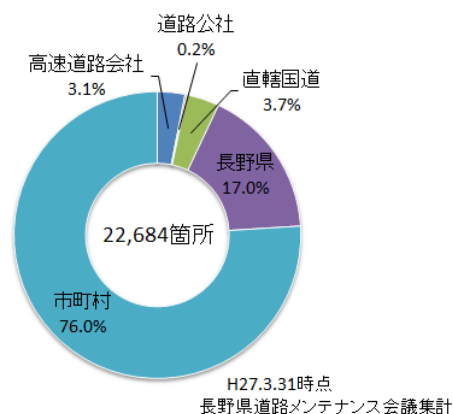
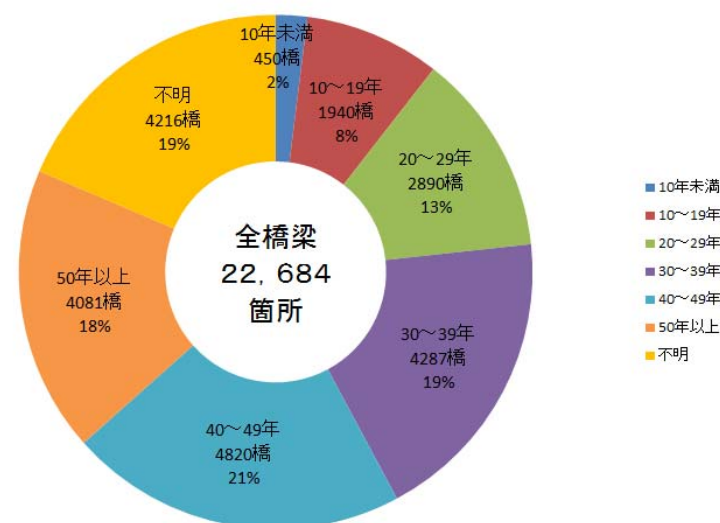
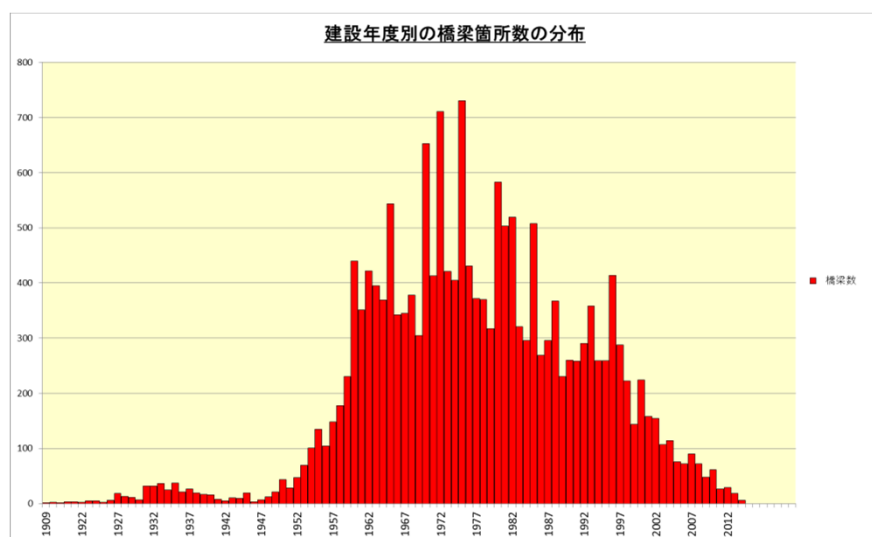
建設後50年以上の橋梁箇所数の増加



■ 建設後50年以上の橋梁
■ 建設後50年未満の橋梁
※橋長2m以上対象 (平成25年4月1日時点)

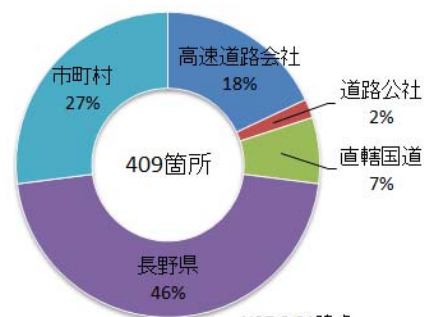
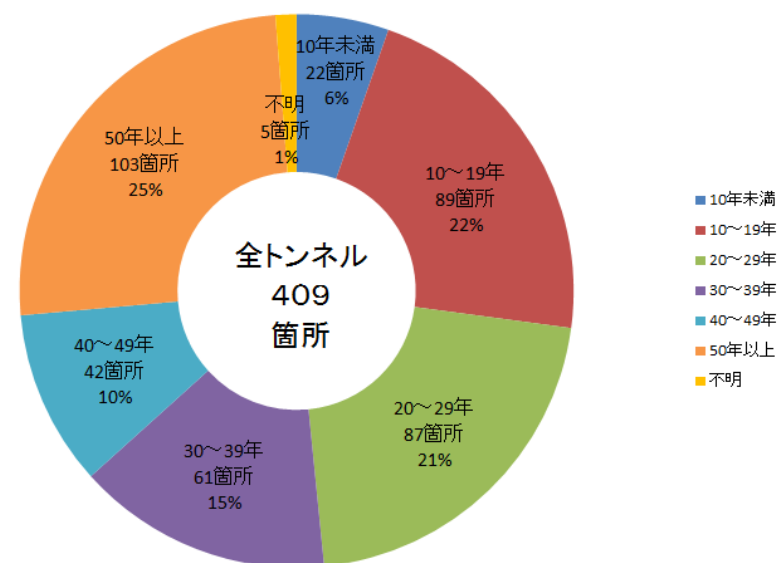
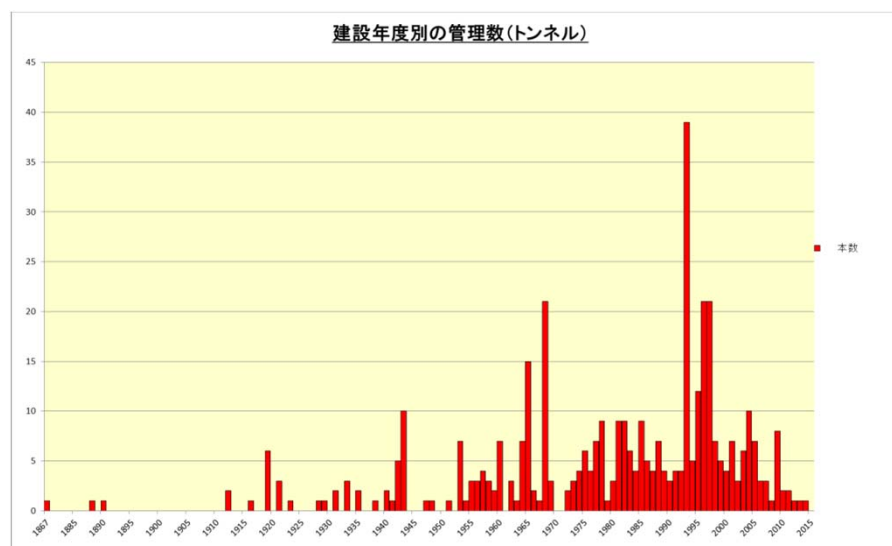
1 県内道路施設の概要

1-1 長野県内全橋梁の建設後経過年数

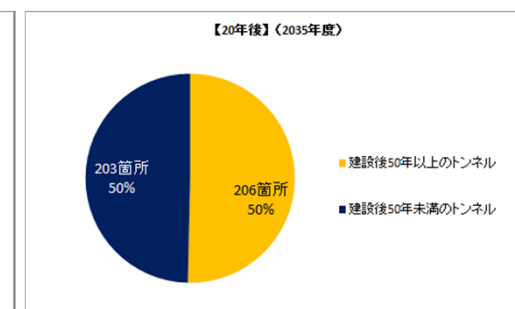
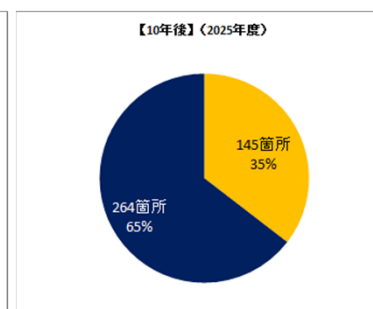
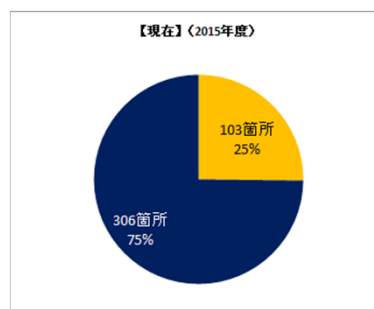


1 県内道路施設の概要

1-2 長野県内全トンネルの建設後経過年数

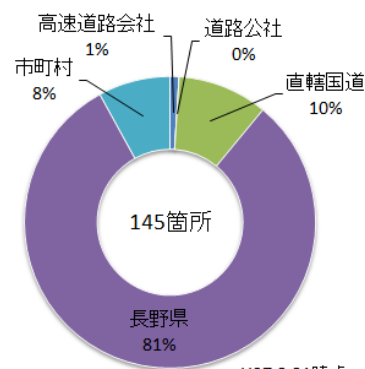
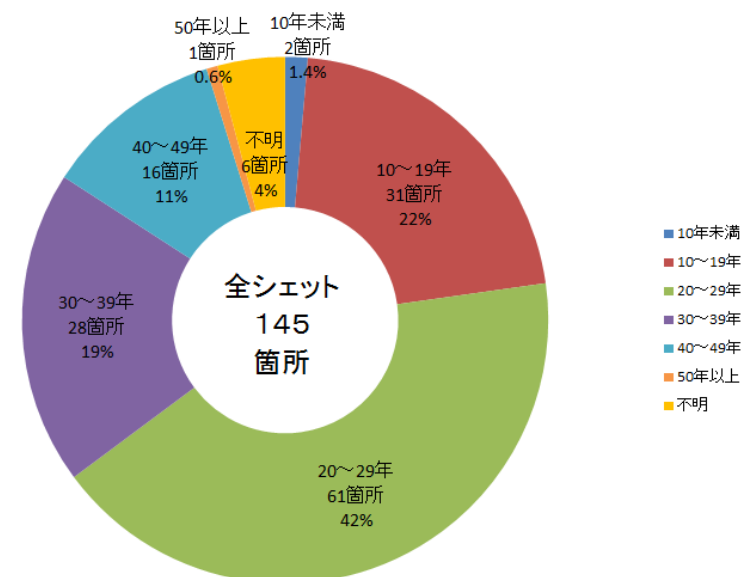
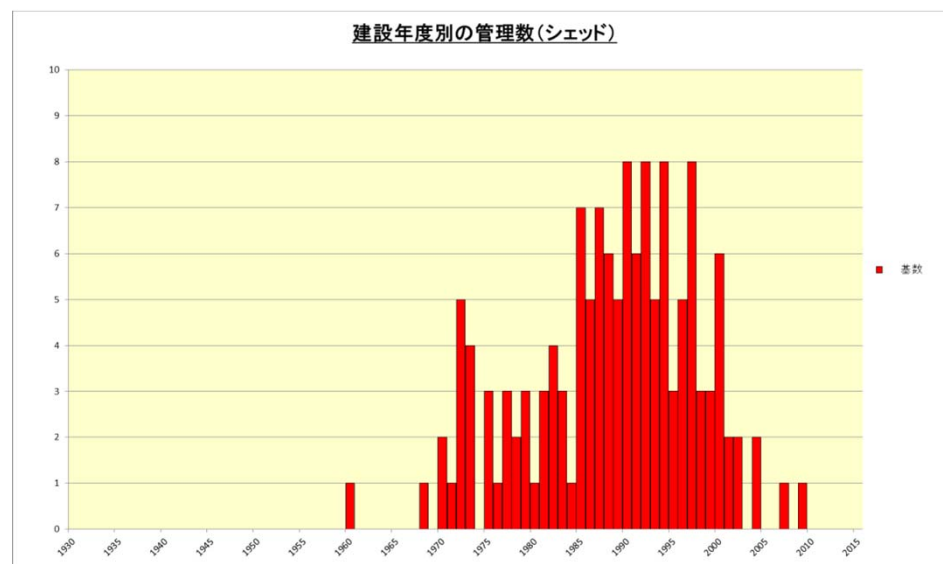


H27.3.31時点
長野県道路メンテナンス会議集計

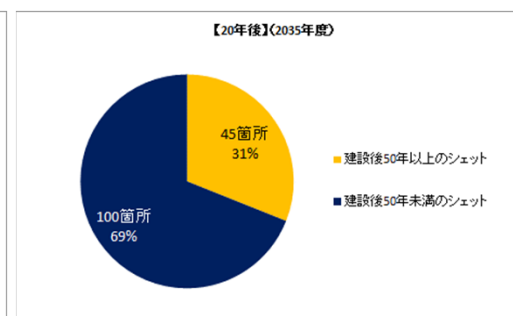
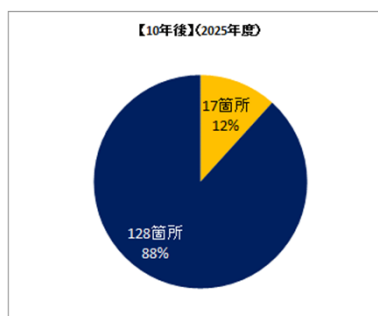
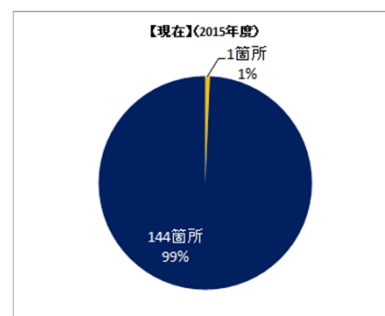


1 県内道路施設の概要

1-3 長野県内全シェットの建設後経過年数

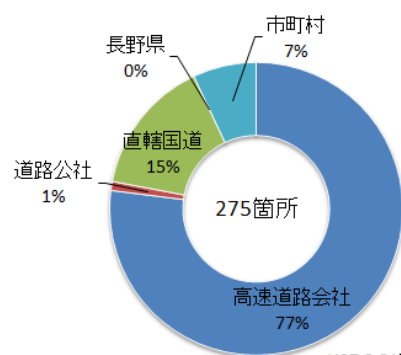
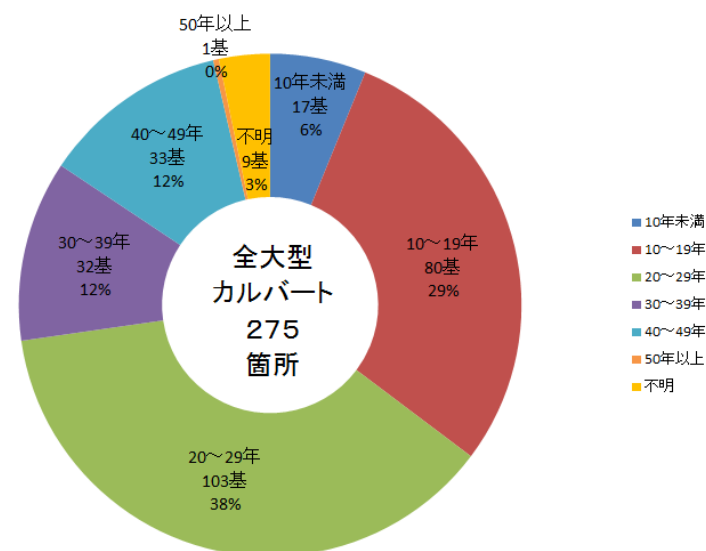
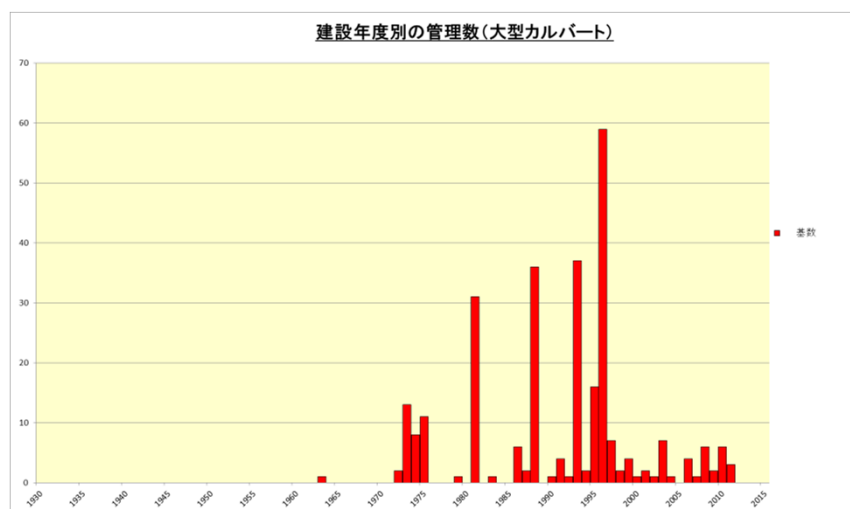


H27.3.31時点
長野県道路メンテナンス会議集計

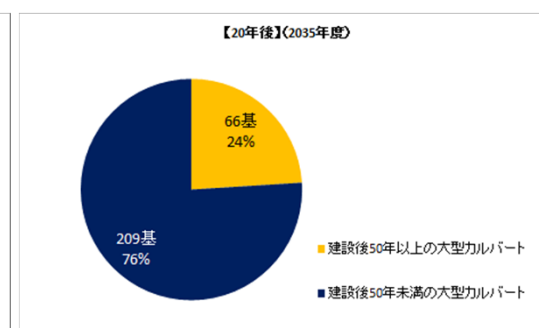
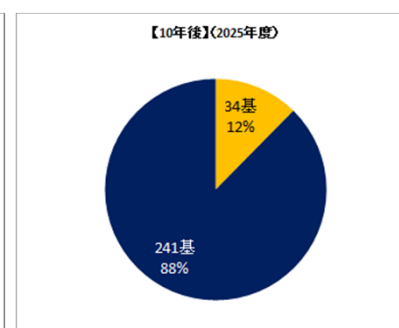
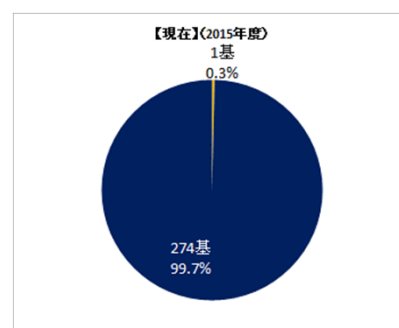


1 県内道路施設の概要

1-4 長野県内全大型カルバートの建設後経過年数

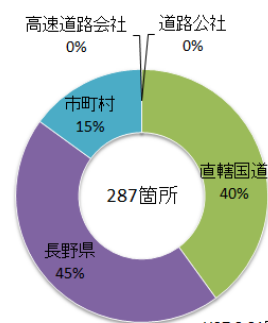
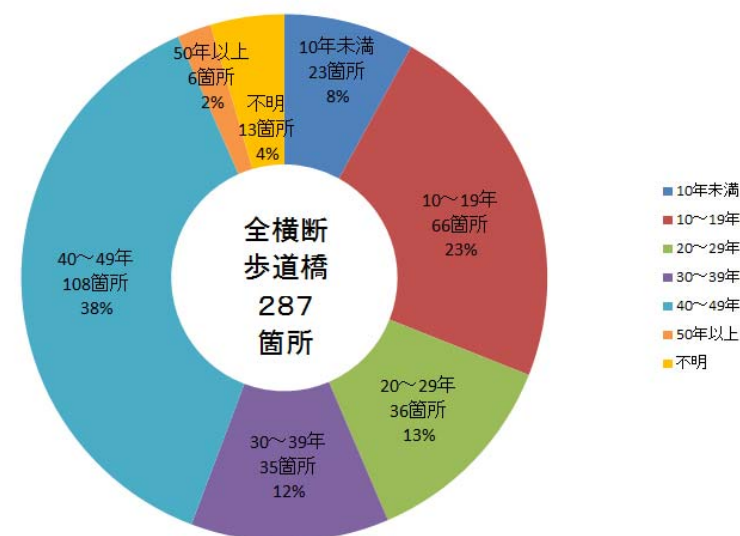
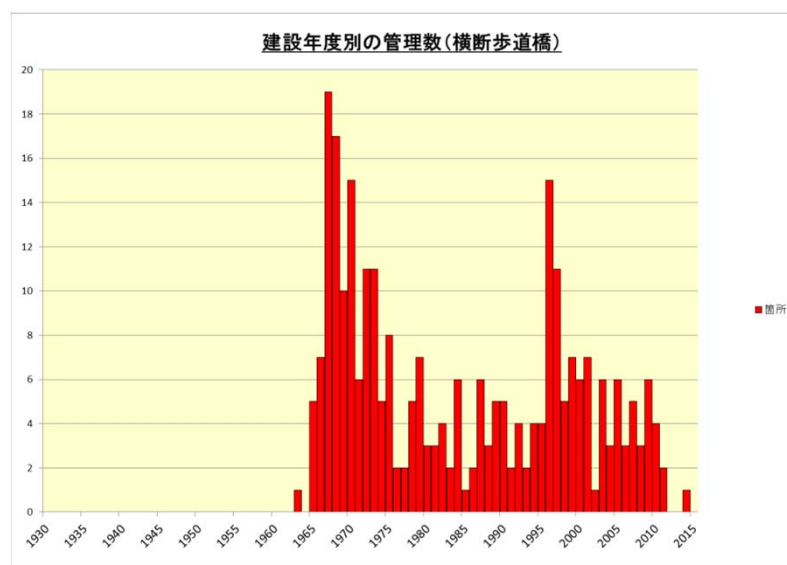


H27.3.31時点
長野県道路メンテナンス会議集計

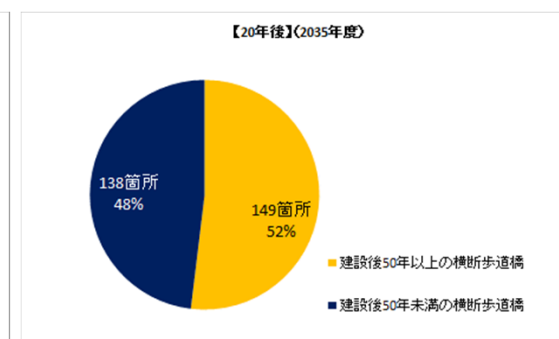
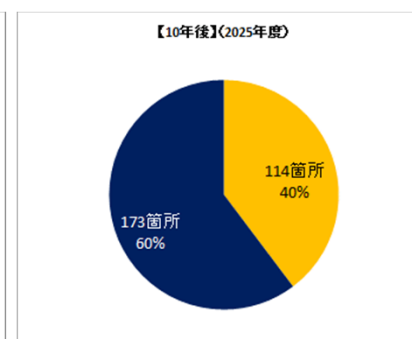
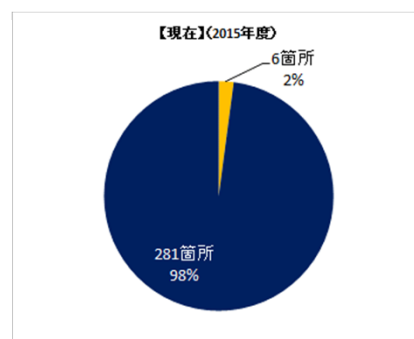


1 県内道路施設の概要

1-5 長野県内全横断歩道橋の建設後経過年数

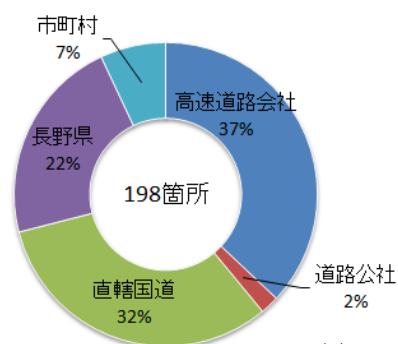
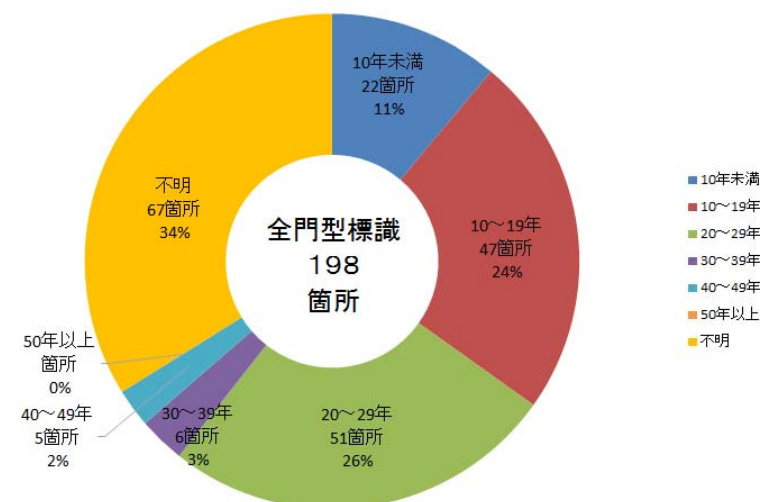
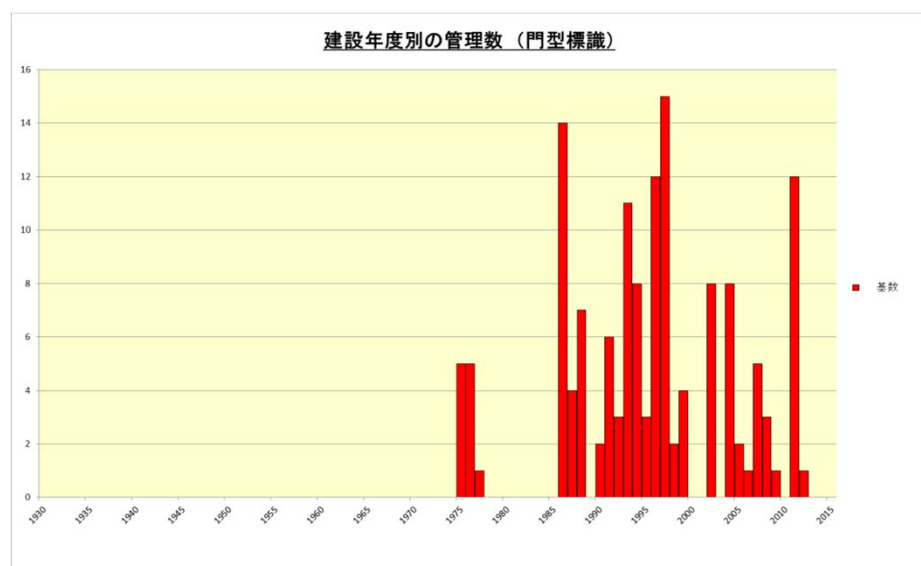


H27.3.31時点
長野県道路メンテナンス会議集計

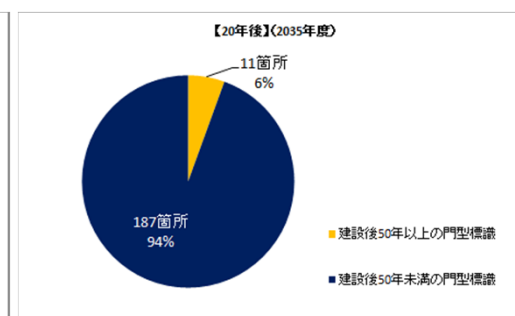
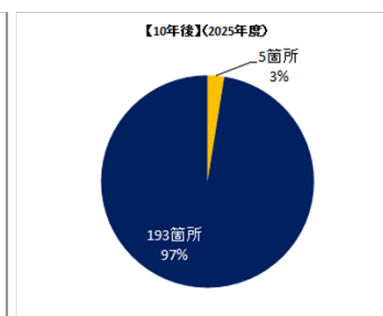
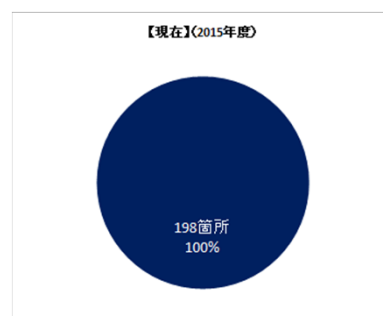


1 県内道路施設の概要

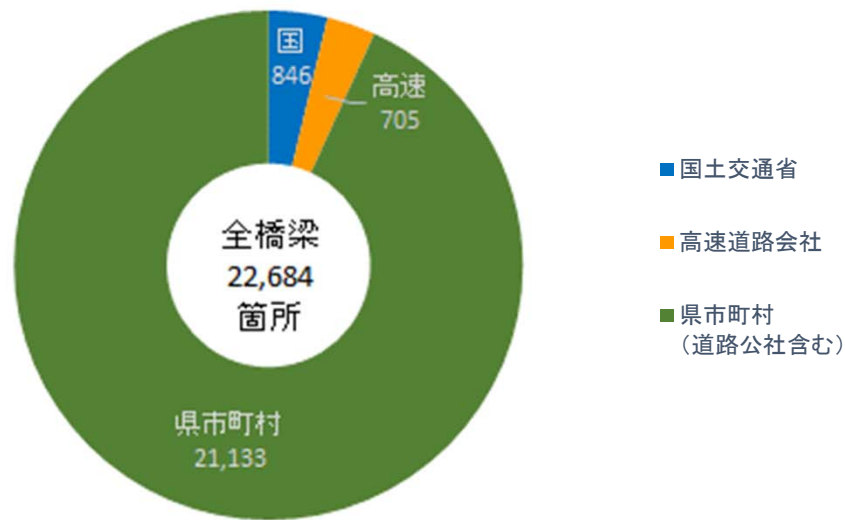
1-6 長野県内全門型標識の建設後経過年数



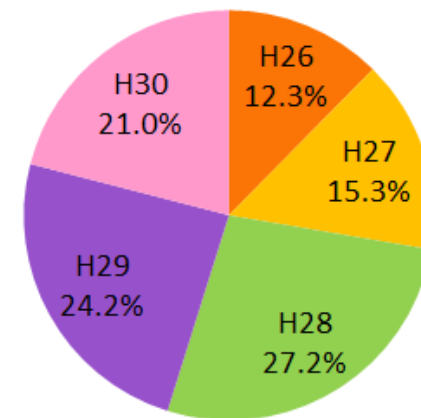
H27.3.31時点
長野県道路メンテナンス会議集計



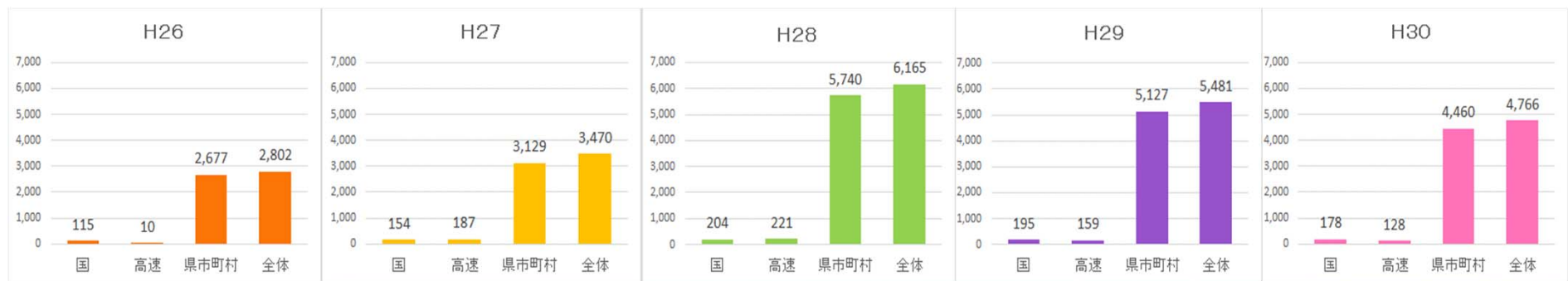
機関割合



年度割合

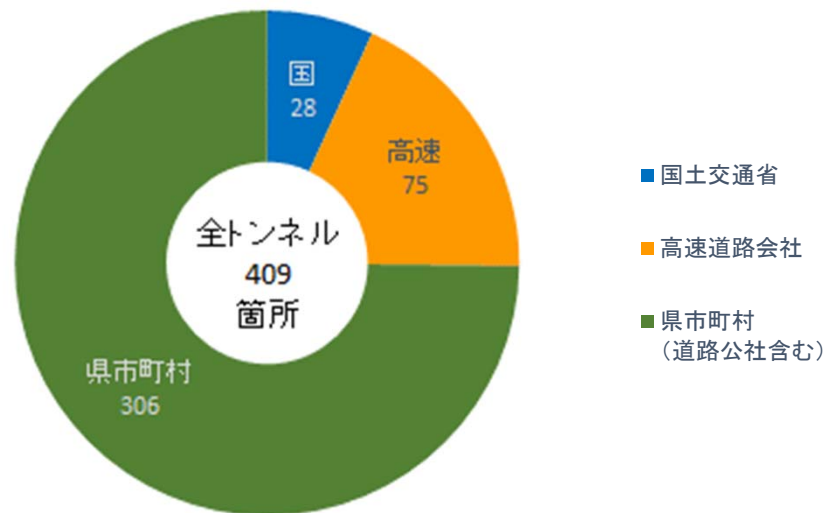


各機関年度計画

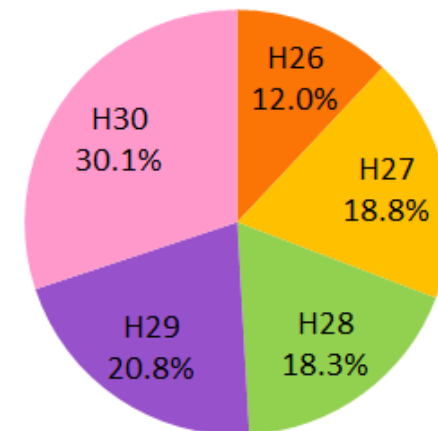


H27.3.31現在
長野県道路メンテナンス会議集計
※橋長2m以上対象

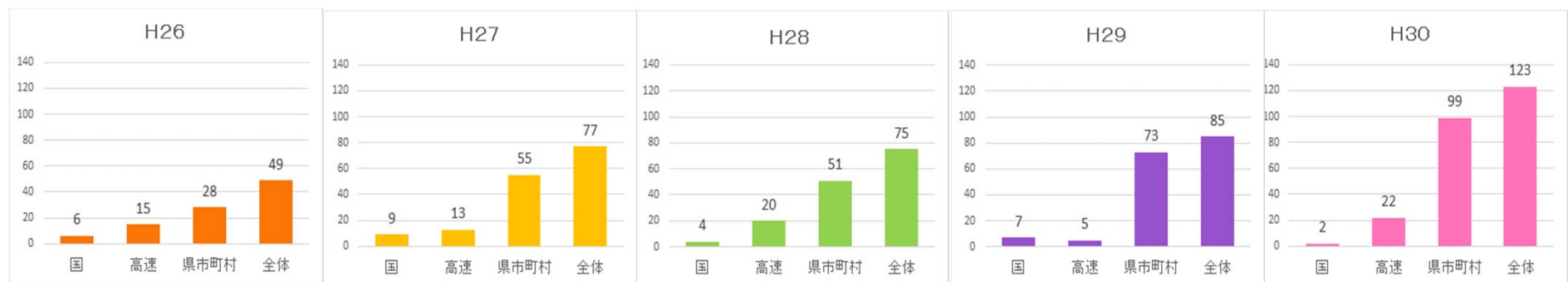
機関割合



年度割合

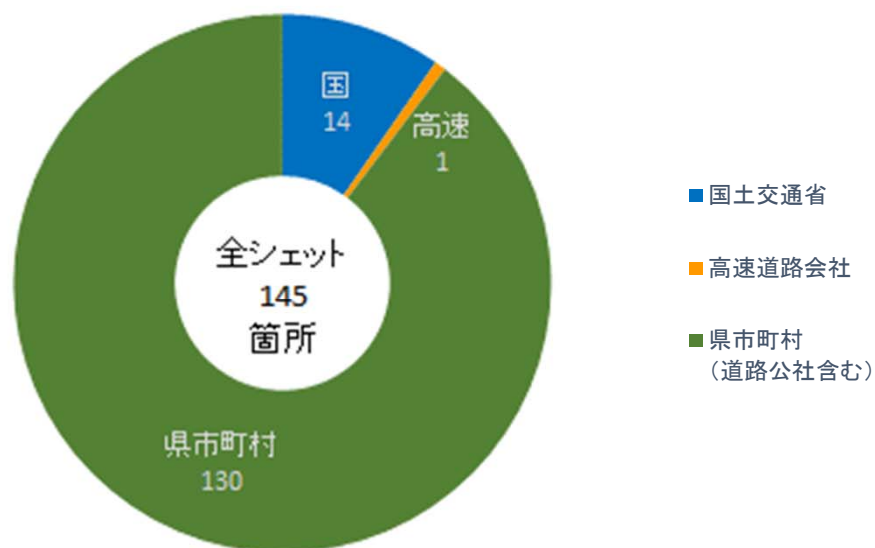


各機関年度計画

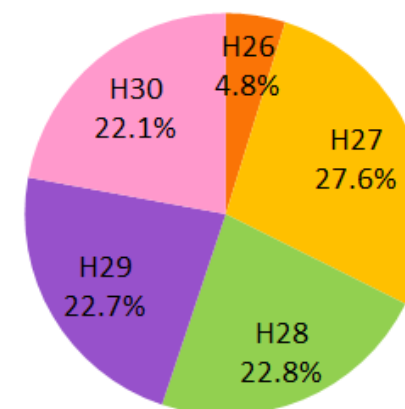


H27.3.31現在
長野県道路メンテナンス会議集計

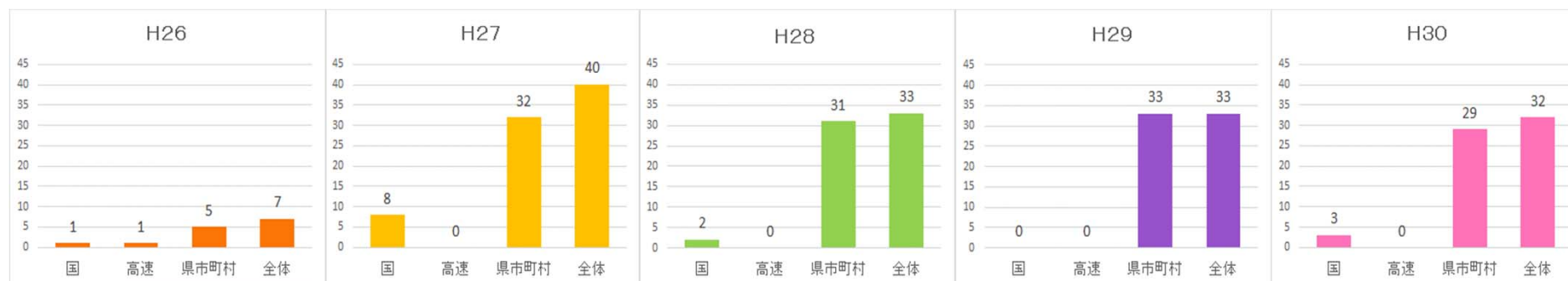
機関割合



年度割合



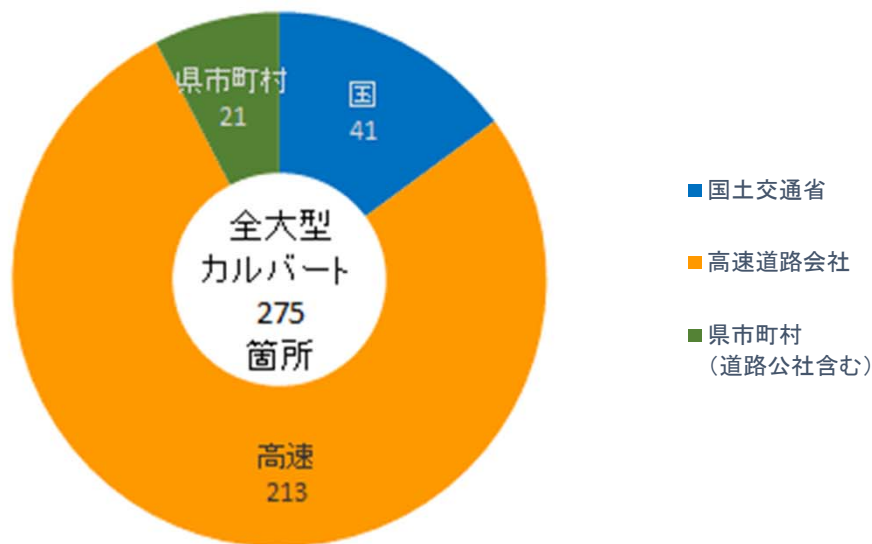
各機関年度計画



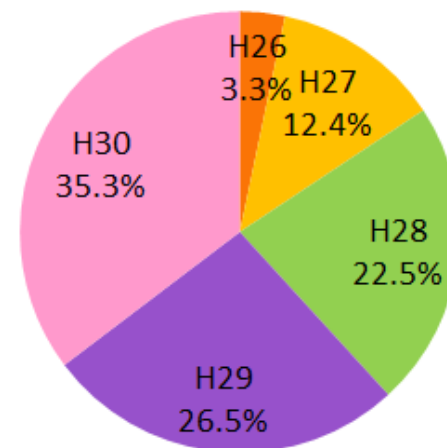
H27.3.31現在
長野県道路メンテナンス会議集計

大型カルバート点検計画

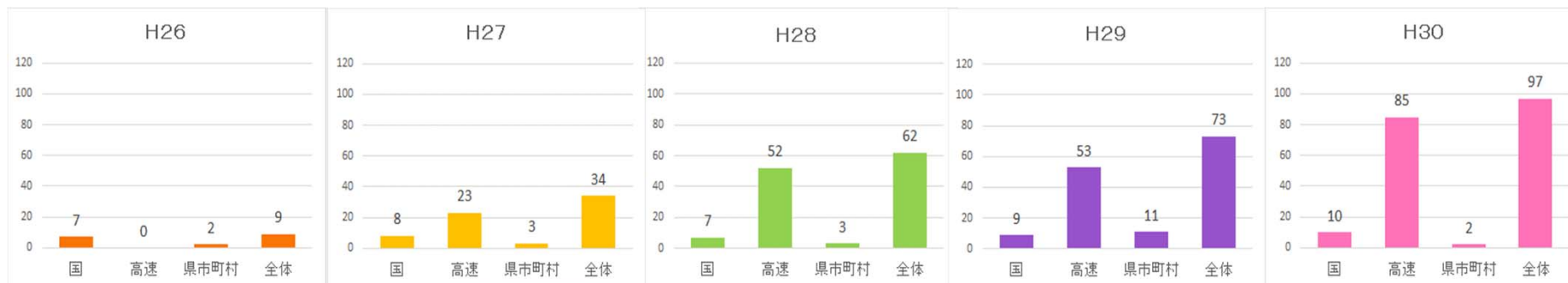
機関割合



年度割合



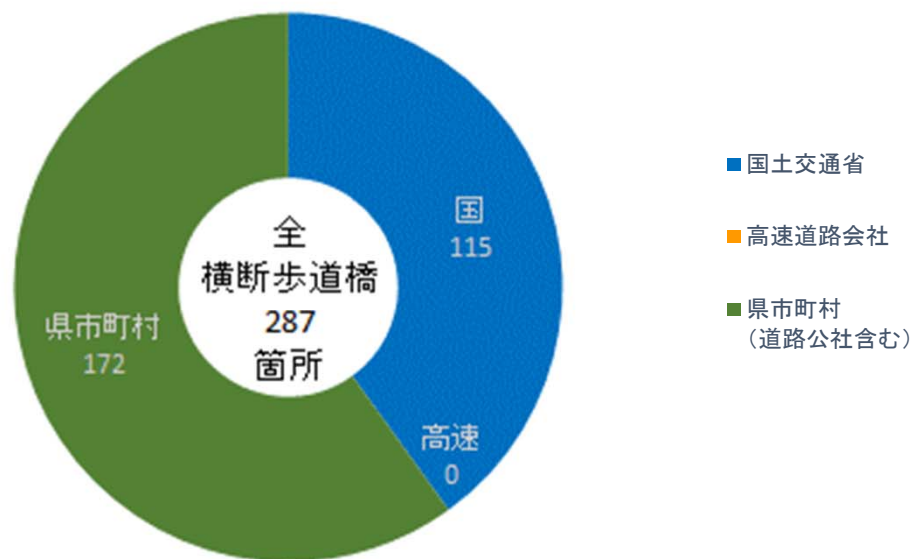
各機関年度計画



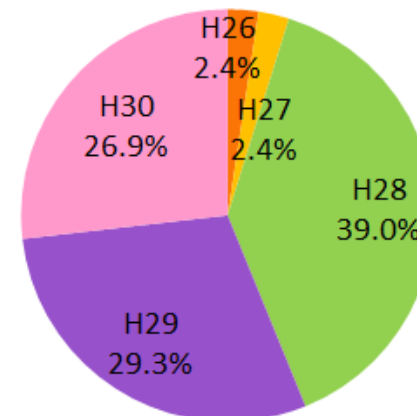
H27.3.31現在
長野県道路メンテナンス会議集計

横断歩道橋点検計画

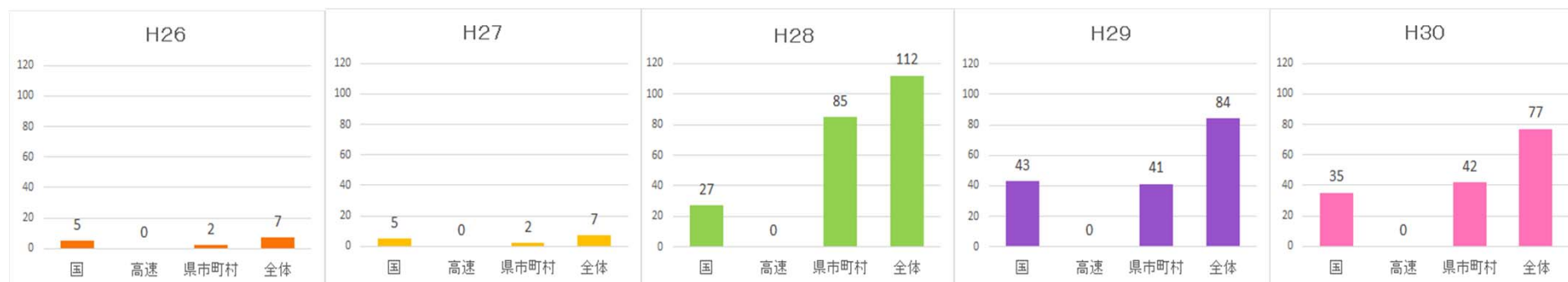
機関割合



年度割合

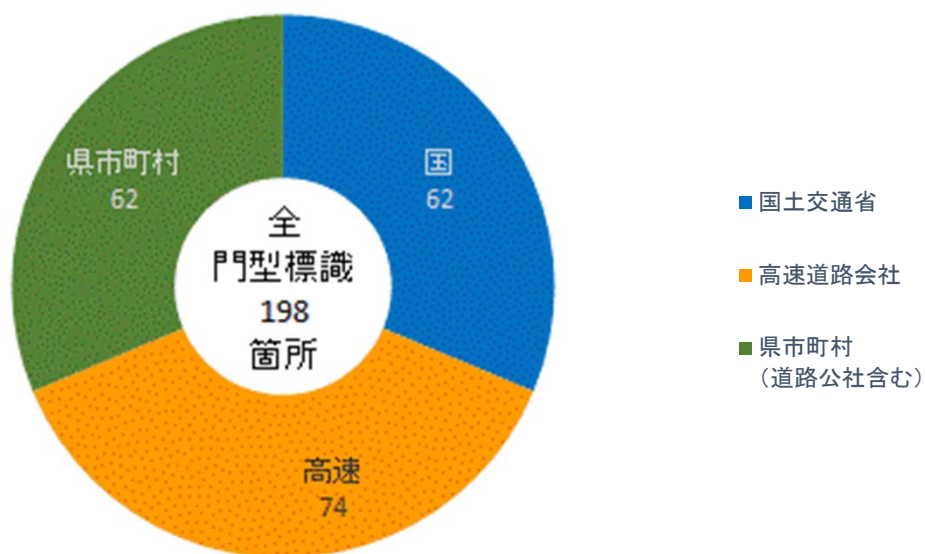


各機関年度計画

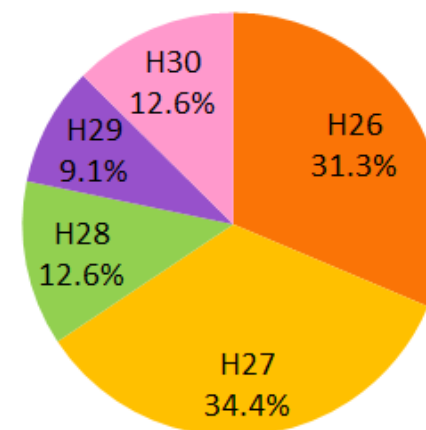


H27.3.31現在
長野県道路メンテナンス会議集計

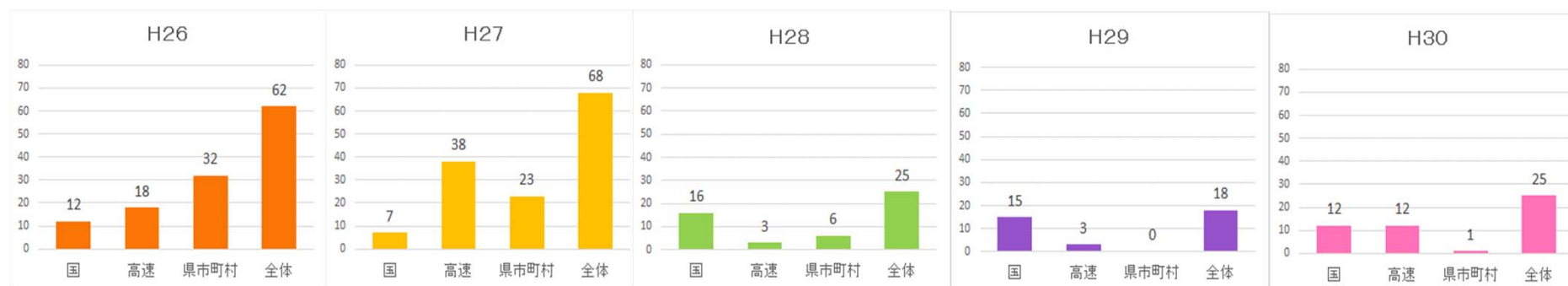
機関割合



年度割合



各機関年度計画



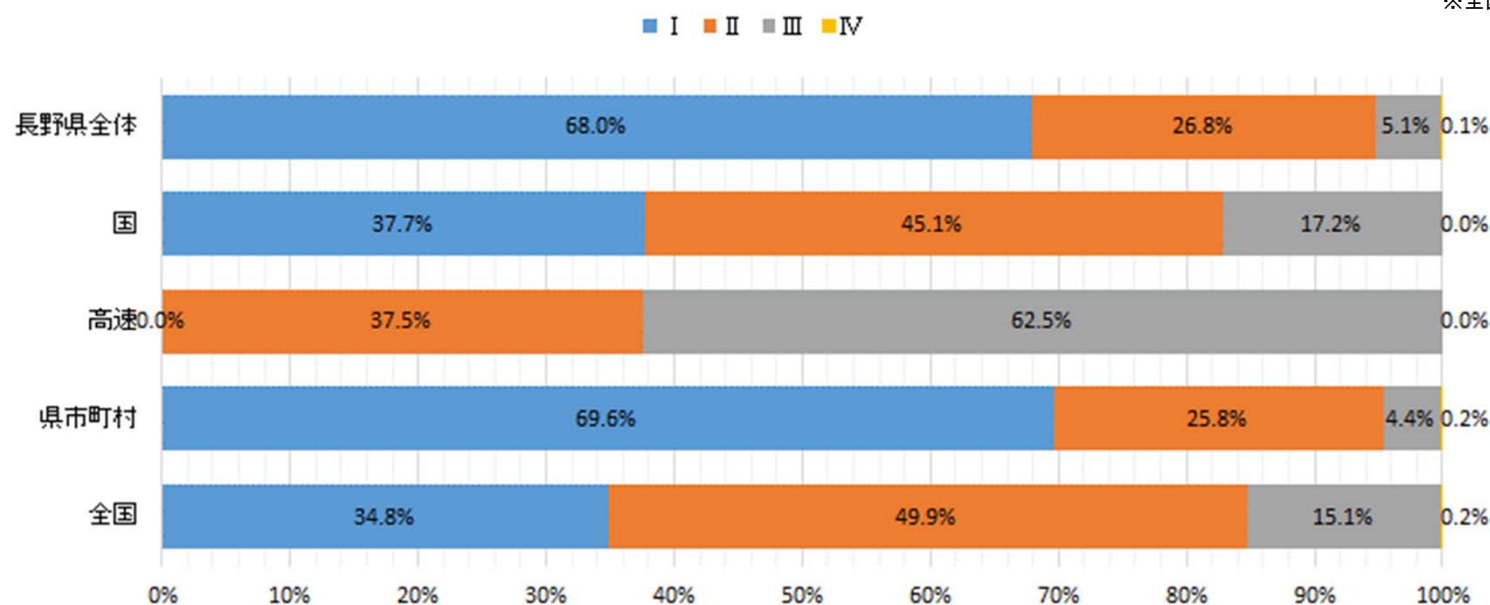
平成26年度 橋梁点検結果

橋梁点検結果					
	全体	判定			
		I	II	III	IV
長野県全体	2721	1849	728	140	4
国	122	46	55	21	0
高速	8	0	3	5	0
県市町村	2591	1803	670	114	4
全国	63719	22166	31832	9612	109

橋梁数

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じてない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

※全国値は 道路局 道路メンテナンス年報より



H27.3.31現在
長野県道路メンテナンス会議集計
※橋長2m以上対象

平成26年度 トンネル点検結果

トンネル点検結果

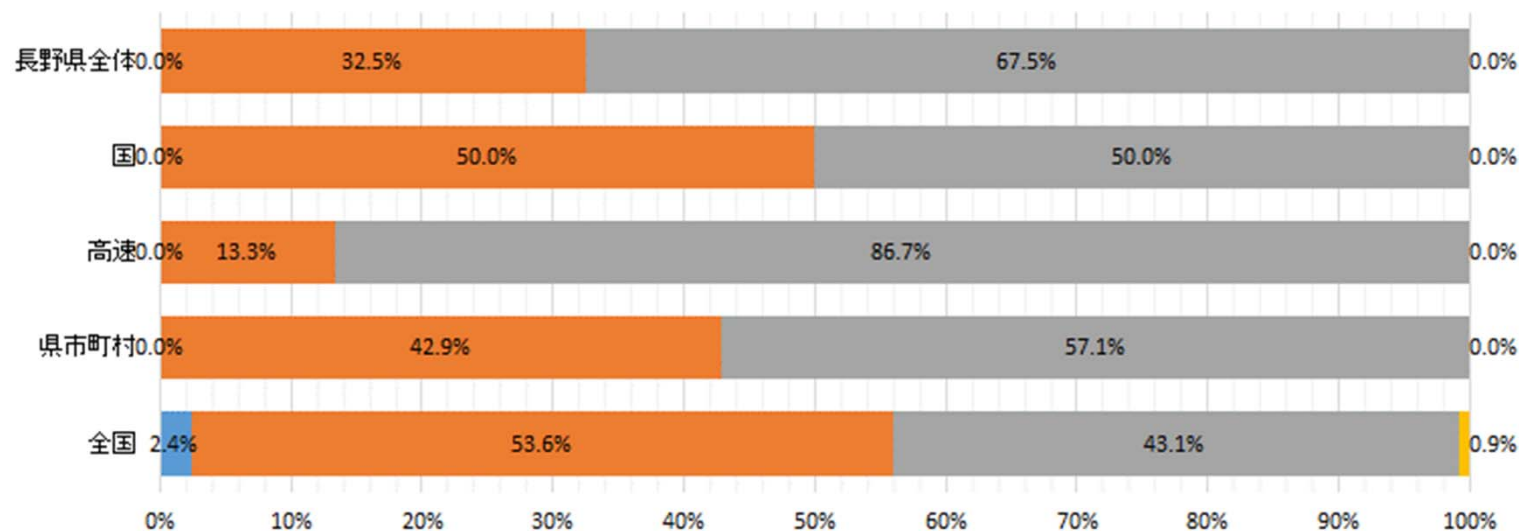
トンネル数

	全体	判定			
		I	II	III	IV
長野県全体	40	0	13	27	0
国	4	0	2	2	0
高速	15	0	2	13	0
県市町村	21	0	9	12	0
全国	1442	34	773	622	13

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じてない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

※全国値は 道路局 道路メンテナンス年報より

I II III IV



平成26年度 道路附属物等点検結果

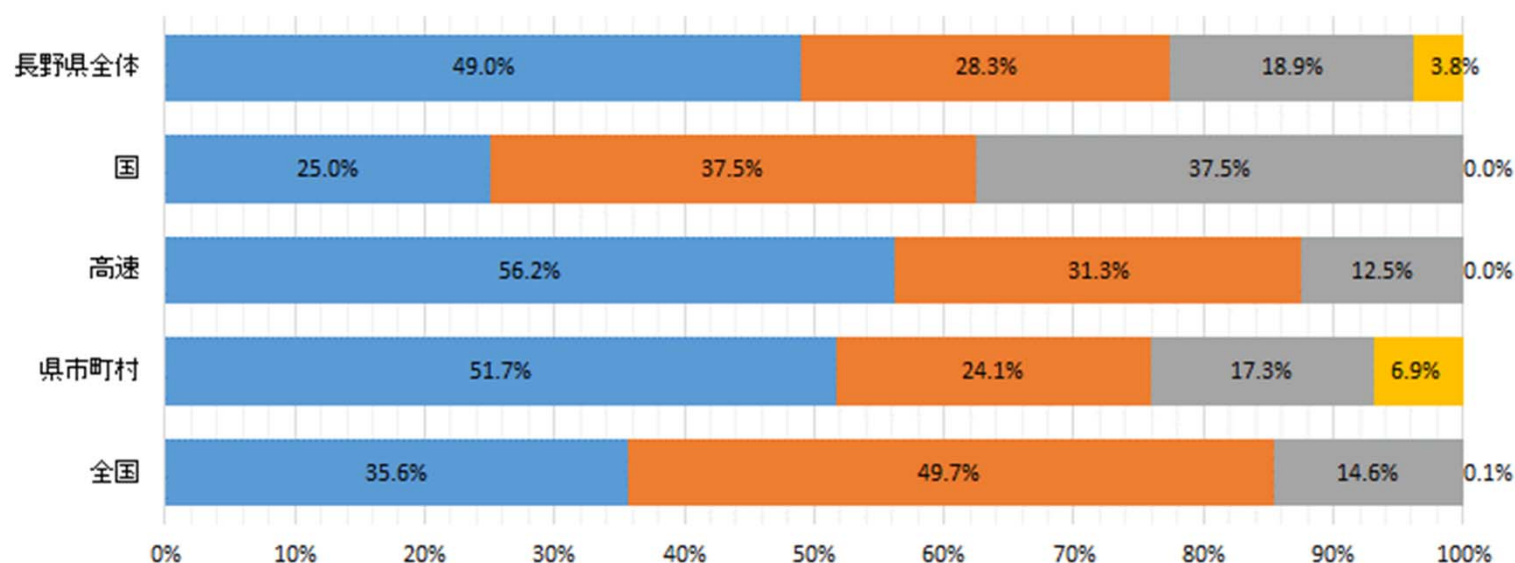
道路附属物等点検結果

	全体	判定			
		I	II	III	IV
長野県全体	53	26	15	10	2
国	8	2	3	3	0
高速	16	9	5	2	0
県市町村	29	15	7	5	2
全国	6359	2261	3161	930	7

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じてない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

■ I ■ II ■ III ■ IV

※全国値は 道路局 道路メンテナンス年報より



道路附属物はシェット、大型カルバート、横断歩道橋、門型標識等の計

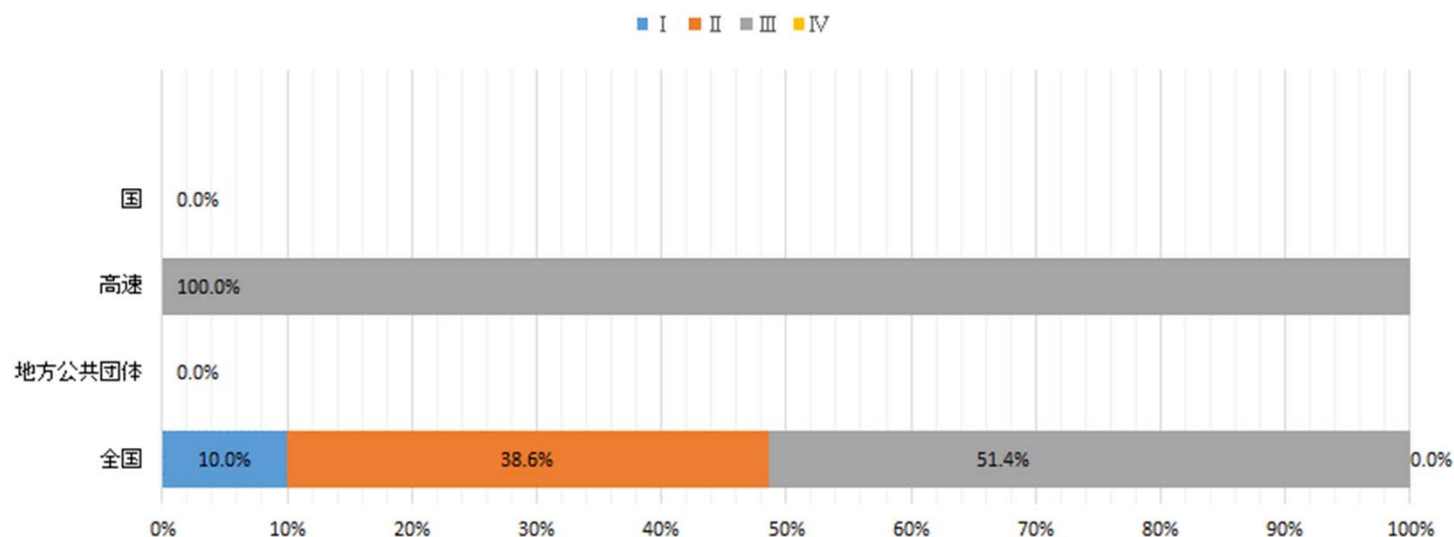
平成26年度 シェット点検結果

シェット点検結果

	全体	判定			
		I	II	III	IV
国	0	0	0	0	0
高速	1	0	0	1	0
地方公共団体	0	0	0	0	0
全国	311	31	120	160	0

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じてない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

※全国値は 道路局 道路メンテナンス年報より



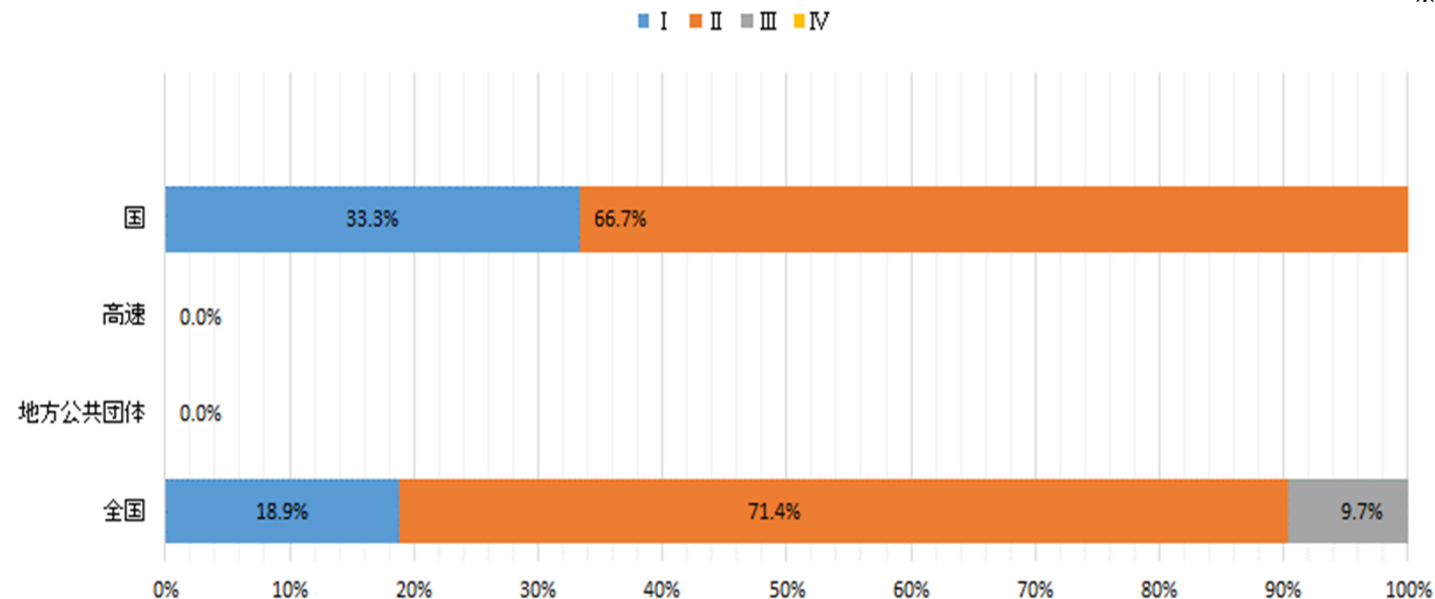
平成26年度 大型カルバート点検結果

大型カルバート点検結果

	全体	判定			
		I	II	III	IV
国	3	1	2	0	0
高速	0	0	0	0	0
地方公共団体	0	0	0	0	0
全国	1255	237	896	122	0

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じてない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

※全国値は 道路局 道路メンテナンス年報より



H27.3.31現在
長野県道路メンテナンス会議集計

平成26年度 横断歩道橋点検結果

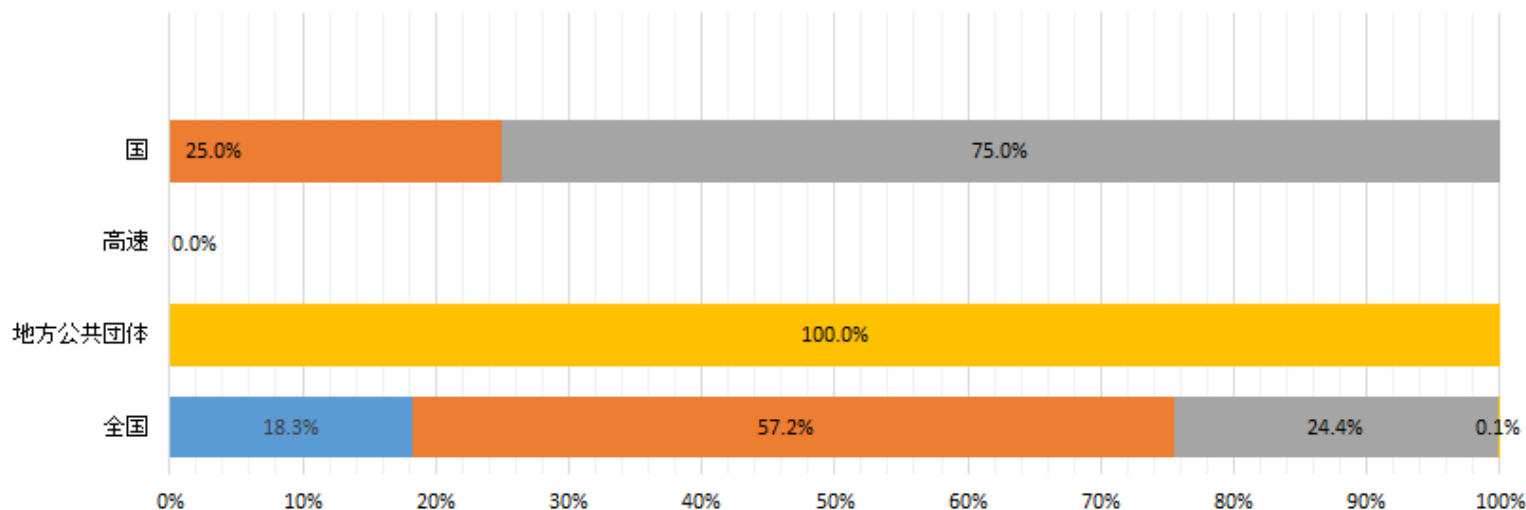
横断歩道橋点検結果

	全体	判定			
		I	II	III	IV
国	4	0	1	3	0
高速	0	0	0	0	0
地方公共団体	1	0	0	0	1
全国	2175	398	1243	531	3

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じてない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

※全国値は 道路局 道路メンテナンス年報より

■ I ■ II ■ III ■ IV



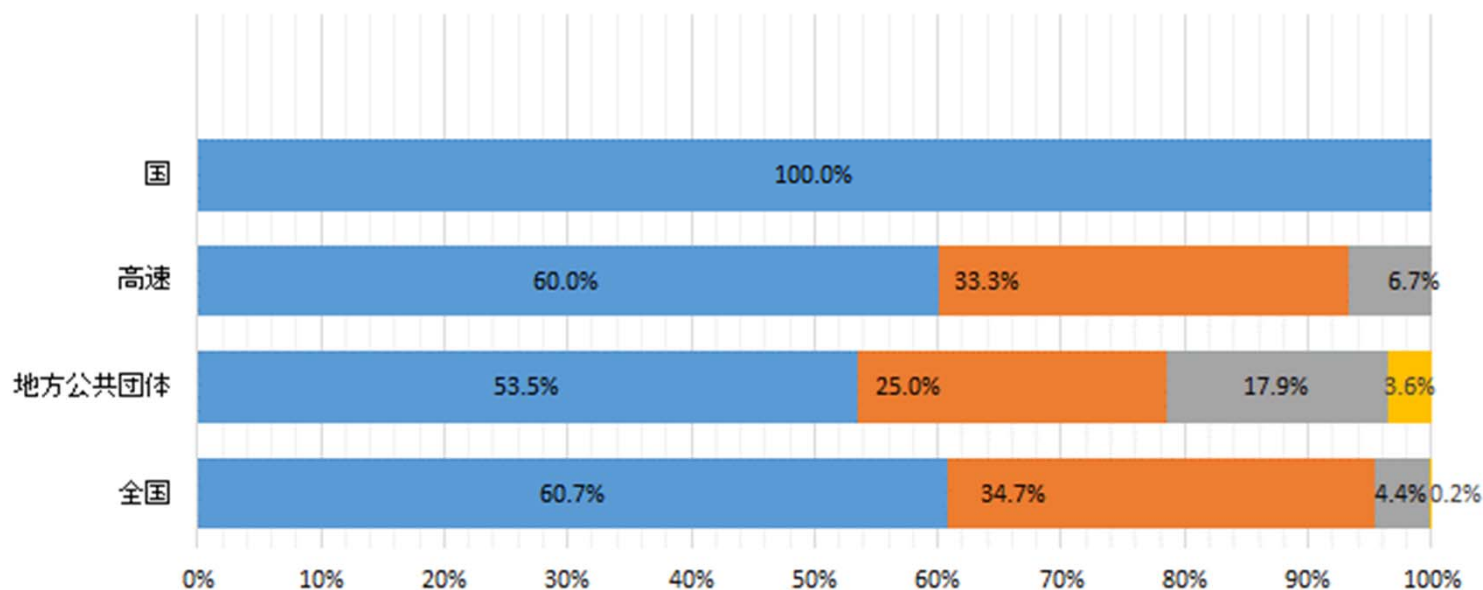
門型標識点検結果

	全体	判定			
		I	II	III	IV
国	1	1	0	0	0
高速	15	9	5	1	0
地方公共団体	28	15	7	5	1
全国	2619	1591	908	116	4

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じてない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

■ I ■ II ■ III ■ IV

※全国値は 道路局 道路メンテナンス年報より



平成26年度の判定区分Ⅳの構造物リストの今後の予定（長野県）

- 平成26年度の判定区分Ⅳの施設は6施設あり、2施設は修繕済、1施設は平成28年に修繕を予定、残り3施設は、通行規制等を継続して実施

<判定区分Ⅳのリスト>

○橋梁

管理者	施設名	路線名	建設年	損傷の具体的内容	今後の予定
長野県 松本市	矢久橋	市道召田旧道1号線	1950	主桁・横桁の剥離と鉄筋露出、床版の変色と劣化	現在、通行止め 迂回ルートがあるため修繕及 び更新は未定
長野県 松本市	島々谷5号橋	市道島々5号線	1965	上部構造の腐食、下部構造の変形、欠損、支承の機能障害	現在、通行止め 一般車両の通行がないため、 修繕及び更新は未定
長野県 松本市	湯川1号橋	市道沢渡2号線	1935	上部構造の腐食、支承の機能障害	現在、4t規制中 迂回ルートがあるため修繕及 び更新は未定
長野県 中野市	向権現木橋	市道高丘6号線	1960	伸縮遊間の異常 地覆剥離	現在、2t規制中 平成28年度補修工事実施予 定

○道路附属物等

管理者	施設名	路線名	建設年	損傷の具体的内容	今後の予定
長野県 南箕輪村	横断歩道橋 桜香丘歩道橋	村道5号線	1982	横断歩道橋部分裾隠し板を止めているボルトナットの緩み	平成26年12月ボルトナット 取付、緩み対策を実施済
長野県 長野市	道路標識1	市道朝陽373号線	不明	支柱基部固定アンカーボルトの破断	平成27年4月にアンカーボル トの更新を実施済

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

○Ⅲ判定損傷の内訳

- ・Ⅲ判定とした主要部材ごとの橋梁数を以下の表に示す。
- ・1橋梁で複数Ⅲ判定とした橋梁もある。
- ・主要部材別では、「床版」、「主桁」、「下部工」、「支承」の損傷をⅢ判定した橋梁が多い。

上部構造			下部構造	支承部	その他
主桁	横桁	床版			
40 箇所	10 箇所	70 箇所	38 箇所	14 箇所	38 箇所
腐食、ひびわれ、剥離・鉄筋露出、漏水・遊離石灰等	腐食等	腐食、ひびわれ、剥離・鉄筋露出、漏水・遊離石灰等	ひびわれ、剥離、鉄筋露出、洗掘等	腐食、沈下、移動、傾斜等	舗装の異常、伸縮装置の遊間異常、高欄腐食、地覆部のひびわれ、剥離、鉄筋露出等

長寿命化修繕計画（2014年度版）

橋梁名	路線種別	路線名	橋長 (m)	架設 年度	供用 年数	最新点 検年次	対策 区分	対策の内容・時期				
								2014	2015	2016	2017	2018
A橋	一般国道	A路線	32	1962	52	2010	C	床版打換	定期点検			
B橋	一般国道	A路線	31	1953	61	2011	C		主桁塗装	定期点検		
C橋	一般国道	B路線	217	1997	17	2011	B			定期点検		
D橋	一般国道	B路線	55	2002	12	2012	C			床版補修	定期点検	
E橋	一般国道	C路線	72	1981	33	2013	C				主桁補修	定期点検
...												
...												
...												

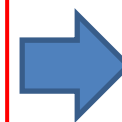
予算の平準化も考慮

毎年更新



長寿命化修繕計画（2015年度版）
※定期点検や詳細調査の結果を受けて、
毎年度、修繕計画を更新していく

更新



長寿命化修繕計画
（2016年度版）

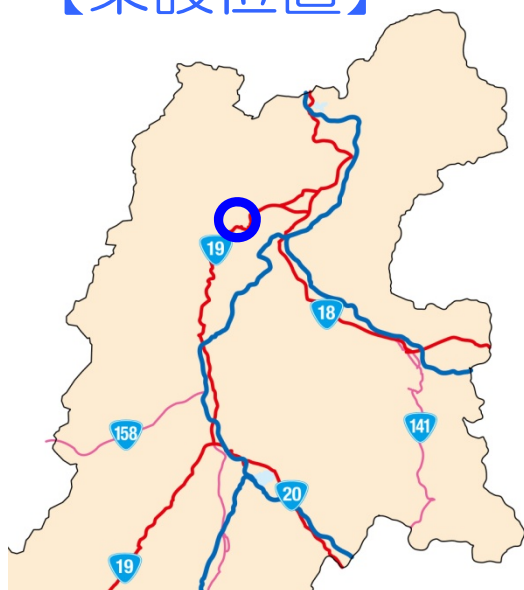
更新



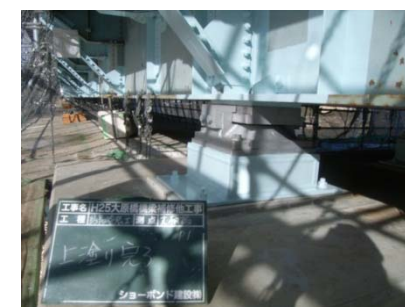
橋梁補修箇所事例(1)

国道19号大原橋（長野市）
1963年架設 経過年数50年超

【架設位置】



施工前



施工後

【補修内容】

- 支承取り替え
- 橋脚補修 等



施工前

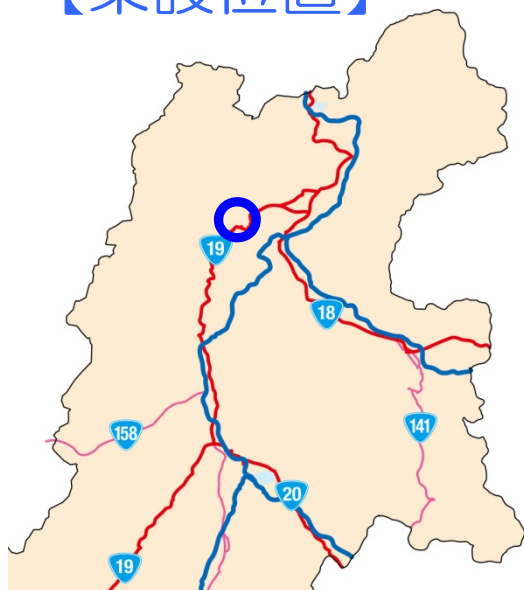


施工後

橋梁補修箇所事例(2)

国道19号大原橋（長野市）
1963年架設 経過年数50年超

【架設位置】



施工前



施工後

【補修内容】

- 伸縮継手取替
- 床版補修 等



施工中



施工後

道路の老朽化対策の本格実施に関する提言 概要

【1. 道路インフラを取り巻く現状】

(1) 道路インフラの現状

- 全橋梁約70万橋のうち約50万橋が市町村道
- 一部の構造物で老朽化による変状が顕在化
- 地方公共団体管理橋梁では、最近5年間で通行規制等が2倍以上に増加

(2) 老朽化対策の課題

- 直轄維持修繕予算は最近10年間で2割減少
- 町の約5割、村の約7割で橋梁保全業務に携わっている土木技術者が存在しない
- 地方公共団体では、遠望目視による点検も多く点検の質に課題

(3) 現状の総括(2つの根本的課題)

最低限のルール・基準が確立していない

メンテナンスサイクルを回す仕組みがない

【2. 国土交通省の取組みと目指すべき方向性】

(1) メンテナンス元年の取組み

本格的にメンテナンスサイクルを回すための取組みに着手

- 道路法改正【H25.6】
 - ・点検基準の法定化
 - ・国による修繕等代行制度創設

- インフラ長寿命化基本計画の策定【H25.11】
 - 【インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議】
 - ⇒インフラ長寿命化計画（行動計画）の策定へ

(2) 目指すべき方向性

- ①メンテナンスサイクルを確定 ②メンテナンスサイクルを回す仕組みを構築

産学官のリソース(予算・人材・技術)を全て投入し、総力をあげて本格的なメンテナンスサイクルを始動【道路メンテナンス総力戦】

【3. 具体的な取組み】

(1) メンテナンスサイクルを確定(道路管理者の義務の明確化)

各道路管理者の責任で以下のメンテナンスサイクルを実施

【点検】

- 橋梁(約70万橋)・トンネル(約1万本)等は、国が定める統一的な基準により、5年に1度、近接目視による全数監視を実施
- 舗装、照明柱等は適切な更新年数を設定し点検・更新を実施

【診断】

- 統一的な尺度で健全度の判定区分を設定し、診断を実施

『道路インフラ健全度』 (省令・告示：H26.3.31公布、同年7.1施行予定)

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

【措置】

- 点検・診断の結果に基づき計画的に修繕を実施し、必要な修繕ができない場合は、通行規制・通行止め
- 利用状況を踏まえ、橋梁等を集約化・撤去
- 適切な措置を講じない地方公共団体には国が勧告・指示
- 重大事故等の原因究明、再発防止策を検討する『道路インフラ安全委員会』を設置

【記録】

- 点検・診断・措置の結果をとりまとめ、評価・公表(見える化)

(2) メンテナンスサイクルを回す仕組みを構築

メンテナンスサイクルを持続的に回す以下の仕組みを構築

【予算】

- (高速) ○高速道路更新事業の財源確保(通常国会に法改正案提出)
- (直轄) ○点検、修繕予算は最優先で確保
- (地方) ○複数年にわたり集中的に実施する大規模修繕・更新に対して支援する補助制度

【体制】

- 都道府県ごとに『道路メンテナンス会議』を設置
- メンテナンス業務の地域一括発注や複数年契約を実施
- 社会的に影響の大きな路線の施設等について、国の職員等から構成される『道路メンテナンス技術集団』による『直轄診断』を実施
- 重要性、緊急性の高い橋梁等は、必要に応じて、国や高速会社等が点検や修繕等を代行(跨道橋等)
- 地方公共団体の職員・民間企業の社員も対象とした研修の充実

【技術】

- 点検業務・修繕工事の適正な積算基準を設定
- 点検・診断の知識・技能・実務経験を有する技術者確保のための資格制度
- 産学官によるメンテナンス技術の戦略的な技術開発を推進

【国民の理解・協働】

- 老朽化の現状や対策について、国民の理解と協働の取組みを推進

地方公共団体の三つの課題（人不足、技術力不足、予算不足）に対して、国が各都道府県と連携して、支援方策を検討するとともに、それらを活用・調整するため、「道路メンテナンス会議」を設置

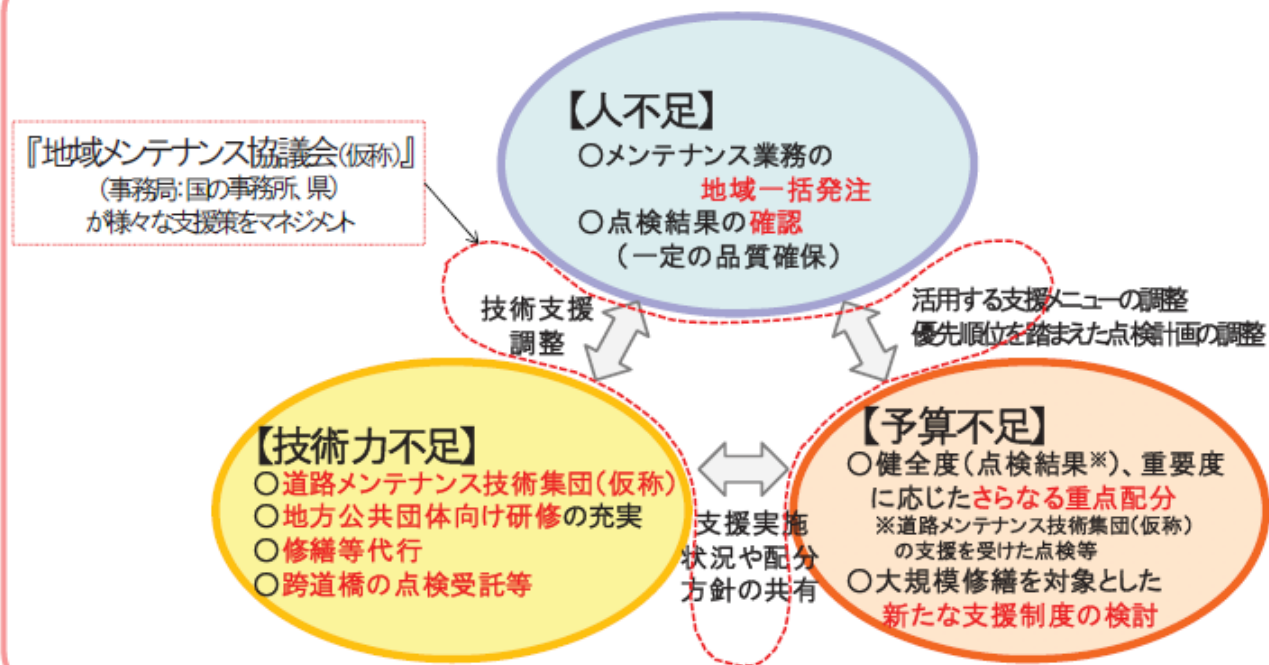
現状の問題点

○地方公共団体における三つの課題（人不足、技術力不足、予算不足）により、点検が進まない、点検結果の妥当性確認ができない、適切な修繕等が実施できない

新たな対応案

- 国が各都道府県と連携し、『地域メンテナンス協議会（仮称）』を設置
- メンテナンス業務の地域一括発注を実施
- 『道路メンテナンス技術集団（仮称）』の技術支援調整を実施するなど、各種支援制度の活用・調整等を協議会がマネジメント

メンテナンスを回す仕組みの概念図



「道路メンテナンス会議」による地方公共団体の取組みに対する支援

関係機関の連携による検討体制を整え、課題の状況を継続的に把握・共有し、効果的な老朽化対策の推進を図ることを目的に、全都道府県で「道路メンテナンス会議」を設置

体制

- ・地方整備局(直轄事務所)
- ・地方公共団体
- ・高速道路会社
- ・道路公社
- 他

役割

1. 研修・基準類の説明会等の調整
2. 点検・修繕において、優先順位等の考え方に該当する路線の選定・確認
3. 点検・措置状況の集約・評価・公表
4. 点検業務の発注状況支援(地域一括発注等)
5. 技術的な相談対応 等

老朽化した道路橋等の対策を効果的・効率的に行うため、「長野県道路メンテナンス会議」(H26.5.28)を設置。

・設置の目的

円滑な道路管理の促進と道路施設等の老朽化対策を強化するため、長野県内における高速道路、国道、県道、市町村道の道路管理者からなる「長野県道路メンテナンス会議」を設置。

・構成

会長：長野国道事務所長, 委員：国土交通省、長野県、東日本・中日本高速道路(株)、長野県内全自治体、長野県道路公社他[104機関]

◆ これまでの経緯

- 平成26年 4月14日 — 社会資本整備審議会道路分科会建議
- 平成26年 5月28日 — 第1回長野県道路メンテナンス会議
- 平成26年 6月25日 — 定期点検要領を策定
- 平成26年 7月 1日 — 維持修繕に関する省令・告示施行
- 平成26年 7月22日 — 定期点検要領等説明会開催
- 平成26年10月20日 — 第2回長野県道路メンテナンス会議
- 平成26年11月 7日 — 橋梁点検に関する現場点検講習会
- 平成26年11月12日 — 学生を対象とした見学会
- 平成26年11月28日 — 「長野県道路メンテナンス会議」橋梁点検講習会
- 平成26年12月25日 — 第3回長野県道路メンテナンス会議
- 平成27年 6月 9日 — 平成27年度 第1回長野県道路メンテナンス会議
- 平成27年 8月25日 — 平成27年度 第2回長野県道路メンテナンス会議
- 平成27年11月 4日 — 現地橋梁点検講習会
- 平成27年11月26日 — 「長野県道路メンテナンス会議」橋梁点検講習会
- 平成27年12月24日 — 平成27年度 第3回長野県道路メンテナンス会議



第1回 長野県道路メンテナンス会議
(H26.5.28) 状況

「長野県道路メンテナンス会議」橋梁点検講習会」

◆講習会の目的

地方公共団体の職員等を対象に、点検に関する法令、技術基準の体系等に関する講習を行うとともに、現地にて点検、記録の実習を行い、研修参加者の技術向上を図ること。

◆講習会の概要

実施日：平成27年11月20日(金)

場 所：【講義】 篠ノ井市民会館

【現場実習】新篠ノ井橋・篠ノ井橋(国道18号)

参加者：長野県内の各自治体・関係機関 の計34機関(64名)
建設コンサルタンツ協会9社(39名)



記者発表資料

「長野県道路メンテナンス会議」橋梁点検講習会の開催 ～メンテナンスサイクルの確立に向けて～

高度経済成長期に集中的に整備された道路施設の老朽化が、急速に進んでいます。国、地方共に厳しい財政状況の中、これらの老朽化した道路施設の補修や更新をいかに適確に対応していくかが重要な課題となっています。

平成26年7月1日に道路法の一部が改正され、道路施設の点検に関する基準が省令で定められ、必要な知識と技能を有する者が、5年に1度の頻度で近接目視による点検が義務づけられました。

今回、長野県道路メンテナンス会議では、長野県内の地方公共団体職員及び民間企業の社員等を対象に、道路橋の点検等に関する橋梁点検講習会を開催します。

なお、橋梁点検講習会は、点検に必要な基礎知識を習得するための講習会と実橋を用いた現地実習を行います。

日 時：平成27年11月20日(金) 10:00～16:00
場 所：(講習会)篠ノ井市民会館(現地実習)国道18号 新篠ノ井橋
内 容：(講習会)点検に必要な基礎知識
(現地実習)橋梁点検の実施 等

報道機関の皆様へ

- 取材(カメラ撮影等)は、講習会の冒頭から挨拶までと現場実習が可能です。
- 取材される場合は、11月19日(木)12時までに、下記問い合わせ先にご連絡下さい。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、飯田市役所記者クラブ、塩尻桔梗ヶ原記者クラブ、木曽合同庁舎記者会、伊那市役所記者クラブ、駒ヶ根市役所記者クラブ
長野県庁会見場、長野市政記者クラブ、長野市政記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 長野国道事務所 国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所
副所長 廣瀬 一志(ひろせ かずし) 副所長 野田 茂樹(のだ しげき)
道路構造課 高橋 明(たかはし あきら) 事業対策官 田中 智徳(たなか とものり)
TEL 026-264-7012 TEL 0265-53-7206

長野県 建設部 道路管理課
企画幹 関 克浩(せき かつひろ)
TEL 026-235-7301

◆点検講習会の状況①(講義)



◆点検講習会の状況②(現場実習)



「長野県道路メンテナンス会議」現地橋梁点検講習会

◆座学の状況

◆講習会の概要

実施日：平成27年11月4日(水)

場 所：座学 伊那市 いなっせビル

現場 伊那市市道 水神橋、野底橋

参加者：長野県南部地域の自治体・関係機関の25機関(54名)

◆講習の主な内容

座 学：橋梁点検のポイント

補修方法事例（コンクリートの劣化機構、補修工法の選定、
補修工法事例紹介）

現地講習：水神橋（劣化、損傷状況の講習）

野底橋（点検記録様式記入の実習）



◆現地講習の状況(水神橋)



◆現地講習の状況(野底橋)



「学生を対象とした見学会」(平成26年11月12日)

◆ 見学会の目的

○道路施設を適正に維持管理するうえでの課題となっている
老朽化対策として、道路管理者が実施している定期点検、補
修工事の状況を間近に見ることにより、将来の土木技術者を
目指す学生に、その重要性を学習していただくことを目的に
見学会を開催。

◆ 橋梁概要

- ・ 国道 19 号 大原橋（長野市信州新町日原東地先）
- ・ 橋梁形式：5径間連続鋼非合成鈹桁橋
- ・ 橋 長：169m
- ・ 架設年次：1963年（昭和38年）

◆ 参加者

- ・ 学 生：48名
- ・ 大学院生： 5名
- ・ 先 生： 3名

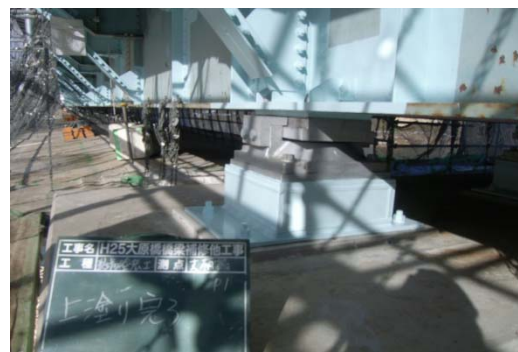


◆ 見学会の内容

【補修工事】 地覆・防護柵 伸縮装置	橋の上の作業規制帯へ移動し、補修工事の説明。 橋梁の各部位の説明。機能など。損傷の説明。
支承（施工後）	足場内へ移動し、補修後の支承を見てもらい、機能について説明。
支承（施工中）	補修中の支承を見てもらい、補修工事の施工上の留意点について説明。
【橋梁点検】 支承（施工前）	補修前の支承を見てもらい、橋梁点検の着目点について説明。 サイドブロック、沓座モルタル、支承機能の点検。
床版 鋼桁	橋梁の床版、鋼桁について点検調査を実施。 打音検査、浮き、剥離点検、ひび割れ点検（チョーキング）、の 実践。 腐食、亀裂点検、ゆるみ・脱落、溶接部、塗装状況の確認。
【試験】 磁粉探傷試験 点検車	疲労により発生する亀裂損傷の確認試験である「磁粉探傷試験結果」を見学。 橋梁点検に使用する点検車についてのデモ。



支承（施工前）



支承（施工後）

